交通安全ニュース

Monthly Report

2016年11月号

特集　SASを考える

2012年に関越自動車道で起きた高速ツアーバスの事故はまだ記憶に新しいことと思います。バスが高速道路脇の壁に激突し、死亡7名、重軽傷38名にも及ぶ大事故でした。この事故では、運転手にSAS(睡眠時無呼吸症候群(以下「SAS」という))の症状が確認されたことでも注目が集まりました。皆さん「SAS」を覚えていますか？
SASとは、睡眠時に無呼吸状態が繰返される病気のことです。日本の潜在患者数は300万人以上!?とも言われており、見過ごしのできないほど身近な病気になっています。今回はSASの持つ危険性と、兆候らしき症状がある時にどんな対応をすればよいのか再確認してみましょう。

1. SASの危険性

SAS患者は夜の睡眠中に深い眠りが得られず、昼間に強い眠気が起こり易い状態になります。
SASによる居眠りは、仕事中や運転中にも悪影響を与えかねません。
日本での研究によると「運転中の眠気」の経験割合は、SAS患者群が非SAS患者群と比較して４倍、「居眠り運転」ではなんと5倍という調査結果も示されています(図１)。
欧米の研究報告においてもSAS患者群の方が非SAS患者群の７倍も交通事故率が高くなっています(図２)。
事故形態も、車線逸脱による正面衝突や落下など、大事故につながる可能性もあります。
また、この疾病を放置すると心筋梗塞や心不全など、突然死の原因となる恐れがあります。

図1[*1]　運転中の眠気・居眠り運転の経験割合

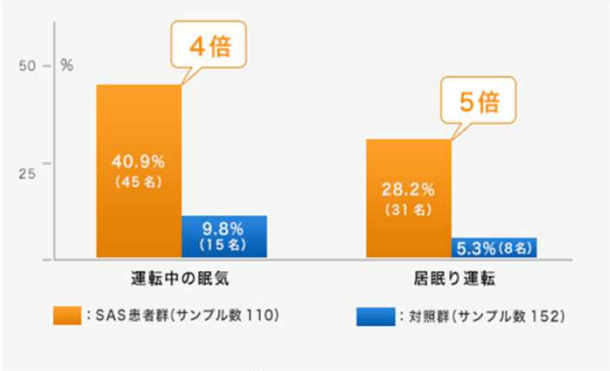
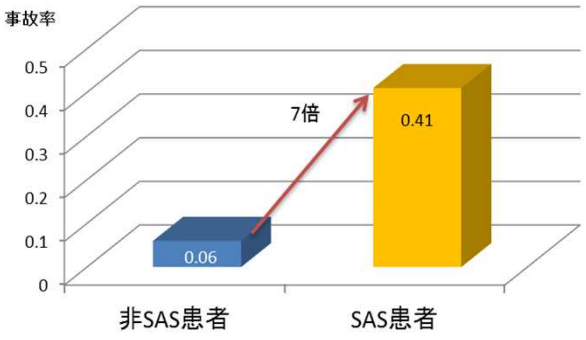


図2[*2]　交通事故率



*1　臨床精神医学1998;27:137-147　井上雄一等　改変
*2　Findley L:Am Rev Respir Dis 138:337-40 (1988)　改変

SOMPO ホールディングス
損保ジャパン日本興亜

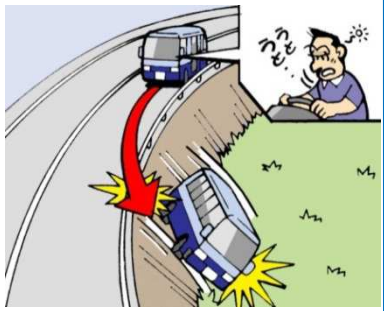
2. SASに起因した事故例 *3

2005年 滋賀	名神高速道路でトラック・バスなどを含む多重事故が発生。7人死傷。トラック運転手は重度のSASと判明。
2008年 山形	高速バスの運転士が眠気を催し走行が不安定に。乗客がバスを停車させて事故を防いだ。
2008年 愛知	大型トレーラーが赤信号の交差点に進入。横断歩道を横断中の男性を死亡させた。運転手は起訴後に重度のSASであることが判明。
2012年 群馬	関越自動車道で走行中のツアーバスが運転手の居眠りにより防音壁に衝突。乗客45人が死傷。運転手にはSAS症状が確認された。
2012年 東京	渋滞中の首都高速湾岸線でトラックがワゴン車に衝突。ワゴン車に乗っていた6人が死傷。眠気を感じてから仮眠状態に陥るまで約1.5キロ、さらに事故に至るまで約1.5キロを運転していたとされる。トラック運転手にSAS症状が確認された。

*3 無呼吸なおそう.com
http://659naoso.com/sas/trouble 閲覧日(20161013)

3. 早期発見早期治療

SASが関与したとされる交通事故は後を絶ちません。それは、自分の症状がSASであるということに気づかず、適切な検査や治療を行っていない人がまだ多いということでもあります。
SASは治療可能な病気ですので、事故を防ぐためには早期発見早期治療が大切です。
一晩中のいびき、起床時の口や喉の渇き、日中眠くなってしまうなどの症状に心当たりのある方、ひょっとするとSASの可能性を否定できません。先ずはSASの可能性を簡易検査で調べてみてはいかがでしょう。



今日、簡易検査は、手軽に使えるスマートフォンでいびきの状態を録音し分析する損保会社提供のアプリなども開発されています。SASの疑いをより簡便に推定してくれますので、本検査、治療へとスムーズに進めるでしょう。早期発見早期治療で安心環境を整えましょう。

SOMPO ホールディングス
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
ホームページ http://www.sjnk.co.jp

時間に余裕をもって、
「お・も・い・や・り」のある運転を！
みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス（株）一同